

広域連合と国保連の制度矛盾

医療消費者の視点から

後期高齢者医療制度における縦割り構造が、高齢者と家族に負担を押し付けている現状を批判的に検証します。制度の透明性欠如と組織間連携不足が生み出す実質的な問題を、消費者保護の観点から分析していきます。





制度の根本的矛盾とは

広域連合の役割

後期高齢者医療制度運営

- 保険料徴収・資格管理
- 医療給付支給
- 財政管理

国保連の役割

診療報酬審査・支払業務

- 診療報酬審査
- 医療機関との調整
- 委託業務処理

両組織の連携不足により、高齢者と家族が制度の狭間で混乱と不利益を被る構造的問題が発生しています。公的組織でありながら、その運営の不透明さが消費者保護を阻害している実態があります。

広域連合の組織実態

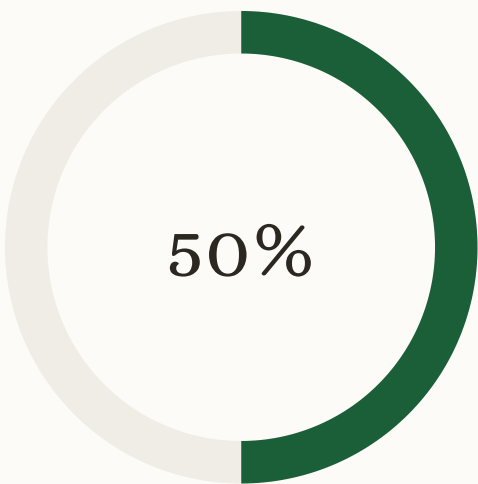
法的根拠と組織構造

高齢者医療確保法に基づき設立され、都道府県内すべての市町村が加入して構成されています。広域連合長は首長の互選により選出され、議会を設けて条例・予算を決定する仕組みです。

主要業務内容

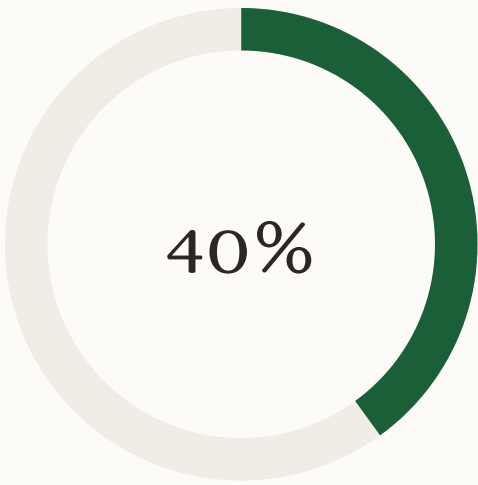
- 保険料徴収と資格管理
- 医療給付の支給決定
- 財政管理と予算執行
- 市町村との連絡調整

財源構成の実態



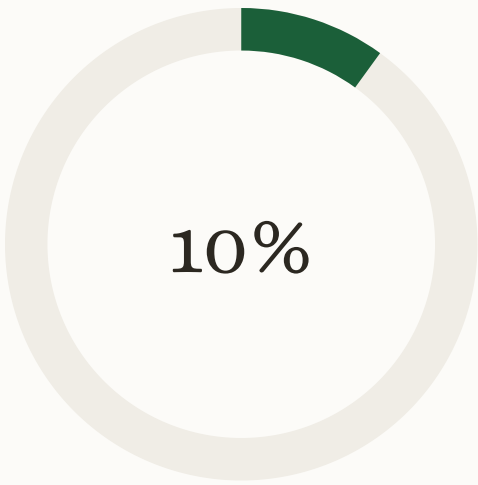
公費負担

国4/6、都道府県・市町村各1/6



現役世代支援金

国保・被用者保険からの拠出



高齢者保険料

本人負担分

国保連の組織実態

法的根拠

国民健康保険法に基づき都道府県単位で設立。市町村国保や国保組合が会員となり、理事会方式で運営されています。

主要業務

診療報酬の審査・支払業務を中心に、医療機関との調整や後期高齢者医療・介護保険の委託業務を実施しています。

財源構成

加入者の保険料（国保税）、国50%の公費負担、都道府県・市町村分担金、高額療養費交付金等で運営されています。



実際の返戻事例が示す問題

1

申請内容

マッサージ申請：多発性ニューロパチー・腰部脊柱管狭窄症（筋萎縮）

鍼灸申請：腰痛症（慢性的疼痛）

2

返戻理由

「同一病名または症例の場合、はりきゅうまたはマッサージどちらかで算定」

3

広域連合の対応

審査医師が同一部位と判断し、国保連へ照会を促すが、これは本来の主な業務範囲外ではないか。

4

国保連の対応

同じ腰部なので返戻、再申請可能とするが最終判断は審査医師と回答。根拠の曖昧さが露呈。





医学的判断と行政判断の混在

❏ **重要な疑問点：**すでに医師の同意書があり、医師法19条・20条成立後に、その審査医師が本当に医学的判断を下せるのか。無診察治療の懸念はないのか。

→ 診察している医師の同意書発行

適切な診察に基づく医学的判断として同意書が発行されているにも関わらず、なぜ後から別の医師による「審査」が必要なのか。

→ 行政事務への医学的判断の混在

再申請や施術録提出は通知通りの行政事務だが、そこに「医学的判断」が曖昧に混在している問題。

→ 消費者への負担転嫁

事前告知で防げるものを返戻扱いにすることで、結果的に消費者に過度な負担を押し付けている。



制度の不透明性がもたらす深刻な課題



根拠性の不明瞭さ

判断基準が明確でなく、同じような事案でも対応が異なる可能性があります。行政事務に医学的判断が混在し、責任の所在が曖昧になっています。



消費者への負担転嫁

事前告知で防げる返戻を後から処理することで、高齢者や家族が不必要な事務負担と精神的負担を強いられています。



制度への信頼失墜

透明性を欠く運営により、公的医療制度への信頼が損なわれ、医療消費者の権利が軽視されている状況です。

消費者が被る具体的影響

高齢者・家族への影響

- 判断基準が見えず混乱が継続
- 返戻対応による事務負担の増加
- 必要な医療サービス利用の委縮
- 制度理解の困難による不安拡大

医療従事者への影響

- 根拠が曖昧な返戻対応で現場疲弊
- 患者への説明責任の増大
- 事務処理時間の非効率な増加



これらの影響は単なる事務的な問題ではなく、**高齢者の医療アクセス権**と**生活の質**に直結する重大な問題として認識すべきです。

今後の対応方針

医療消費者団体として、会員から依頼があれば正式に意見書を提出する予定です。以下の4つの柱を中心とした提言を行います。

01

責任範囲の明確化

広域連合と国保連の役割分担と責任範囲を明確に定義し、消費者にとって理解しやすい制度運営を実現します。

02

情報提供の徹底

消費者目線での情報提供と事前告知を徹底し、返戻による不利益を事前に防ぐ仕組みを構築します。

03

透明性の向上

組織運営・予算の透明化と説明責任を強化し、公的組織としての説明責任を果たすよう求めます。

04

判断基準の明確化

医療判断と行政判断の線引きを明確にし、消費者が理解できる判断基準を確立します。





「透明性」

公的組織の説明責任を問う

広域連合と国保連は、いずれも公費を用いて運営されている「公的組織」です。その運営の不透明さや縦割りの矛盾は、最終的に高齢者と家族に不利益と混乱をもたらす恐れがあります。

公平性の確保

すべての高齢者が平等に医療サービスを受けられる制度設計

透明性の実現

判断基準と手続きが明確で理解しやすい制度運営

一元的な管理

組織間の連携を密にした効率的で消費者本位の運営

これらの改善を求め、意見書提出を通じて制度改善を働きかけていくことで、真に消費者保護に資する医療制度の実現を目指します。